

統合マスタの構築

物流、電子カルテ・オーダー、医事、部門システムマスタの一元化

山下貴範 九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター（MIC）

1. 【はじめに】

現在の病院情報システムでは、物流システム、電子カルテ・オーダーシステム、医事システム、部門システム（放射線、手術、内視鏡など）から構成されている。本院では各システムのマスタメンテナンスを各部署が個別に行っていたため、管理が煩雑となり整合性が合わない事象が散見されていた。精度の高い物品管理とより良質な病院経営のために、システム間で各マスタを横断的に管理する統合マスタを構築した。

2. 【構築】

統合マスタは、各システムマスタの上位に位置し、新規採用された医療材料や薬品を登録する際に、物品コードをキーに一括で管理できる仕組みとした（図1）。医療材料、薬剤ともに業界共通のマスタを登録できる機能を備えた。統合マスタ上で薬剤部、経理課、患者サービス課、MICそれぞれが管理すべき項目を入力し、全ての共通項目が入力された段階で、物流システム、電子カルテ・オーダーシステム、医事システム、部門システムへ自動連携され整合性を保つこととした。

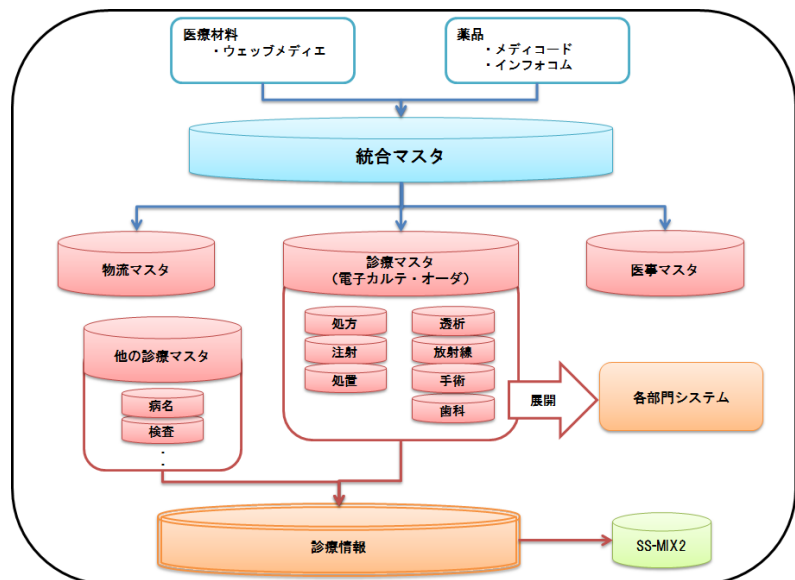


図1 統合マスタ概念図

3. 【運用】

医療材料については経理課が、薬品については薬剤部が統合マスタ上に新規登録し、その後、登録された情報や医事コードの有無をMICにて確認し確定保存する運用になっている。医事コードが無い場合は、患者サービス課と相談した上で医事システムマスタを新規登録した後、該当の医事コードを統合マスタへ登録している。確定後は各用途の診療マスタ（処方、注射、手術、処置など）へ展開し、部門システムにも連携され、新マスタが利用できる運用となっている。

4. 【結果・まとめ】

統合マスタ上で、物品情報と医事情報が同一キーにて紐づいたことで、これまで各々確認していた診療マスタの物品名称とカルテ名称、医事（請求）の単位とカルテ（実施）の単位が一つの機能で確認できるようになった。部署間でも同一機能を参照することで医事コードの無い場合やその他の問題点が早期に発見でき、請求の取り漏れや間違いを防ぐことにも役立っている。